

1 対策実施病院における課題

① 薬剤師の人員不足

② 薬剤師の業務が多く、時間的余裕がない(入院患者の持参薬整理を薬局に依頼したいが、どの薬局に依頼したらいいか分からないという意見もあり)

※ 対策を効率的に実施できている施設では薬の在庫確認などは非薬剤師にタスクシフトし、時間を捻出していた

③ 退院時、院外施設との処方適正化についての情報共有が十分でない場合、減薬した薬が退院後に再度処方されることがある

2 対策未実施病院における課題

- ① 知識や経験不足により、ポリファーマシー対策に取り掛かることが困難

- ② 医師が自科以外の処方薬を調整することが困難

- ③ 対策を実施するための院内の多職種連携体制を構築することが困難

- ④ 急性期病院ではポリファーマシー対策を実施することが困難

3 その他の課題

- ① ポリファーマシーについて患者の理解が十分でない
- ② 患者のかかりつけ薬局が定まっていない
- ③ 薬局における取組実態が分かっていない
- ④ 好事例をもとにした、より詳細な取り組み等の情報が不足している
- ⑤ 現行の病院薬剤師の配置基準では十分な人員が確保できない
- ⑥ ポリファーマシー対策に係る診療報酬に対する措置が十分でない